

世界ジオパーク認定へ前進、阿蘇ジオパーク国内推薦を獲得

9月24日、日本ジオパーク委員会より山都町蘇陽地区を含む阿蘇地域が世界ジオパーク国内候補地として推薦されました。

地球のダイナミックな活動や痕跡から大地の成り立ちを知り、人間との関わりを楽しむ自然の中の公園という意味である「ジオパーク」。阿蘇ジオパークは、巨大な火山活動の跡である「カルデラ」をはじめとする地形・地質の遺産と、そこで生活している人間の営みが世界に誇る見どころです。

た。日本にはそれぞれ大地の成り立ちのテーマを持った「日本ジオパーク（認定地域）」が阿蘇を含め32か所あります。そのうち、阿蘇が目指す「世界ジオパーク」の認定を受けている地域は洞爺湖有珠山（北海道）など6か所あります。



パンフレット

ジオパークの活動で自分たちの大地の成り立ちや特徴を知る事で、地域資源の特徴や大切さに気付き、防災意識を高めることにもつながります。また、ジオパークであることをブランドとして、地域ビジネスに利用し、その質を高めていかなければなりません。

世界には「香港」（中国）や、「濟州島」（韓国・世界自然遺産にも認定）のほか、ヨーロッパ地域に多く、29カ国・地域に100か所の世界ジオパークがあります。

（2013年9月現在）ジオパークに認定されるには、美しく、珍しい自然や景色があるだけでなく、それらの成り立ちを伝え、教育や観光に活用しているかなど、保護と活用に関する厳しい審査があります。今回、日本委員会の推薦獲得は阿蘇1地域のみです。日本代表のジオパークとして、これからいよいよ世界審査に臨みます。今後、世界委員会の書類審査、来年度の現地審査の後、秋には認定の可否が判明します。

ユネスコ（国連教育科学文化機関）が支援する世界ジオパークネットワークへの仲間入りで、阿蘇が世界的なカルデラ火山・文化を有する地域として、名実ともに資源の素晴らしさを世界中に発信できます。



阿蘇ジオパーク号



ガイド風景



教育活動

クで生活する皆さんが、地域の成り立ちや素晴らしさに気付いているか？など認定のポイントです。今後もジオパークの取り組みにご協力をお願いします。

問い合わせ先…
阿蘇ジオパーク推進室
（0967-3412089）
ホームページ…
<http://www.aso-geopark.jp/>

日本の石橋を守る会が3R（リデュース・リユース・リサイクル）推進功労者賞を受賞

江戸時代の末期に、日本で唯一石橋（石造アーチ橋）を構築する技術をもった「種山石工集団」が熊本県に誕生し、熊本をはじめ九州各地に多くの石橋を構築しました。現在、それら石橋の多くは長年の使用による老朽化などで解体・廃棄が進んでいます。

を開設しています。これは、石橋の構築に必要な知識や技術を習得し、技術継承を目的として、美里町の竹部光春さん（唯一の石橋構築技術保持者）から石橋の構築・修復技術指導を受けながら活動を行っています。

日本の石橋を守る会が受賞した3R推進功労者賞とは「Reduce（抑制）・Reuse（再使用）・Recycle（再資源化）の3つの「R」全てが揃っていないといけない。今回、次の3点が3Rになるとして見事受賞が決定しました。

- ①橋梁のリデュース…数百年の未来得る耐え得る石橋は、新たな橋梁を掛け替える回数が抑制出来る。
- ②石橋のリユース…石橋の拡張を行うことで、交通量の変化に対応できる他、地域のシンボルとしての再生も可能となる。
- ③石材のリサイクル…建物の解体廃材等の基礎石・壁石など、全ての石材は石橋の材料として再利用可能である。

これらの事を危惧した有志たちが昭和55年に「日本の石橋を守る会」を結成しました。結成された当団体は石橋の保護活動をする団体で、石橋を今後も存続させるために様々な活動を行っています。現在会員である尾上一哉さん（千滝）は技術的な分野を担当しています。通潤橋をはじめとする町内外に現存する石橋の調査を行い、その経歴を活かして石橋の修理なども手がけています。

